



わが国のモノ作りとヒトづくり

社団法人 中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 水口可保

わが国の経済規模は世界の15%を占め、アメリカに次ぐ世界第二位の経済大国である。この経済を支えているのは“モノ作り”即ち製造業である。鉄鉱石、石炭、石油、木材などの原材料を輸入し、自動車、船舶、家電製品、工作機械、各種プラントなどを輸出して付加価値を生み出している。いわゆる「モノ作り立国」である。

かつて、わが国の工業製品は「安くて高品質」と言う評価で「世界への供給基地」の役割を果たしていた。しかし、近年はこれまでに技術移転した中国製品の品質が向上し、日本に替わって「世界の供給基地」になりつつある。この影響を受けて、わが国製造業の空洞化が進んでいるが、独創的なコア技術、コア部品への特化によってむしろ競争力を強化しているメーカーも少なくない。

“モノ作り”については中国一辺倒ではなく、付加価値の高い「前工程」(キーデバイス、キーコンポーネント)は国内で担当し、人手のかかる加工や組立てなどの「後工程」を人件費の安い海外に委ねるといった戦略をとっている。その好例として「シャープの液晶」「ソニーのCCD」「キヤノン、リコーのプリンター」「松下のDVD」など精密で精巧なデバイスやユニットがある。

このような戦略が成功している要因は“モノ作り”を担当する「現場の知恵」であり、「ヒトの経験とノウハウ」である。大手メーカーの多くは不況が続いたこの10年間、リストラに取り組み、工場売却、生産の外部委託(EMS)そして雇用調整を繰り返した。結果として黒字経営に転

換したものの永年にわたって蓄積してきた貴重な人材と技術、ノウハウを失っている。一方安易な“ヒトべらし”に走らず、得意分野で独自の技術とノウハウを蓄積して競争力強化に努めた企業は着実に好業績を上げている。

資源小国のわが国は今後も「技術立国」の路線を歩まざるを得ない。その基盤になるのが“独創的なモノ作り”のできる“ヒトづくり”である。しかしある調査によると、昨年相次いだ「製鉄所の爆発事故」、「精油所などの大火災」、「宇宙ロケットの打ち上げ失敗」などの原因は第一に「過剰な人員削減」であり、次いで「技術伝承の不備」「職場意識の欠如」「協力企業などへの外注依存」等が挙げられている。また、これまでの海外への生産移転が「士気の低下」を招き「人材確保が困難」な状況を生み出している。まさにわが国製造業の危機である。

今後取り組むべきことは高齢化社会を踏まえて中高齢者の熟練した技術を活用することである。ワークシェアリングによって知力、体力に見合った「モノ作り」に参加してもらうと共に若年層の「技術教育」「技能の伝承」に活躍してもらいたい。個人差を配慮しない定年制を見直し、70~80歳でも各自の知力、体力に見合った仕事を提供することで社会全体を活性化させる効果も期待できる。

大手メーカーの経営者、当局の意識改革と真摯な取り組みを期待したい。

経営のヒント

“「男の時代」到来を読む”

最近の新聞記事の見出し、テレビの放送番組のテーマで気になる兆しが出ている。

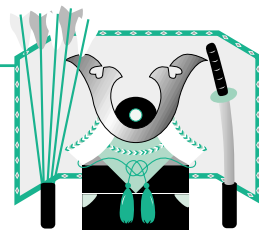
マーケット・ウォッチャー(?)として、最近の動きから、時代の変化をみてとることができる。

新聞には「男性向け高級化粧新製品を全国発売」、「男性向け美脚パンツ発売」の記事、映画「さむらい(武士道強調)」の好評ぶり、NHK大河ドラマは今年の「新撰組」に続く来年の「源義経」へと男性中心のものが続いている。民放でも「白い巨塔」が好評で再放映中である。

元気な高齢者(アクティブシニア)関連では、NHKが平均年齢72歳の男性コーラスグループ(指揮者は92歳の男性)の健在ぶりを放映。経営者、従業員、お客すべてが年寄り男性の「心の居酒屋」のチェーン展開といった話題も出ている。

いまはマーケティング活動に「男」を意識した視点で、積極果敢に取り上げるべきではないかと感じている次第である。

副支部長 高島 和也



タイで集団診断を指導して

兵庫県支部会員 富永 裕

私は2003年の一年間タイ国において中小企業診断士養成事業の一端を担ってきたので、経験したことを書いてみたい。具体的には、財団法人海外貿易開発協会より派遣されて、タイ国の泰日経済技術振興協会(TPA)において診断の専門家として働いた。

タイ中小企業診断士の養成事業

タイでは1997年に通貨危機が起こり、経済が大きな打撃を受けた。経済回復のための課題の一つとして、中小企業振興が政府の方針となった。中小企業診断士制度を確立するためのプロジェクトが1999年から始まって、日本の協力のもと、診断士の養成が行われてきた。研修期間一年間をかけて1000時間あまりの座学および実習を行うというかたちで、これまでに300人以上の修了生を出している。また、修了生が担当して行う中小企業に対するサービス診断も累計1000件以上となっている。

私たちの課題は集団診断の指導

このように実績が上がってきてはいるのだが、診断の対象はまだ製造業の個別企業に限られている。そこで、診断種目の幅を広げる手はじめとして、集団診断の出来る診断士を作ろうということになり、私と愛知県庁OBのK氏とが集団診断のインストラクターとしてタイに行くことになったわけだ。

タイは農業国という印象が強いかもしれないが、1990年ごろからは急速に工業化が進んでいる。バンコクの近郊には数多くの工業団地が建設されていて、外国系の企業が入っている。それに伴って、下請の中小零細企業も増えている。製造企業数の98%、従業員数の50%は中小企業だといわれている。個別企業の診断をやっているだけでは中小企業全体のレベルを上げるのに間に合わないのである。

金型業界の業界診断を実施

製造業の集団診断には産地診断、業界診断、系列診断などがあるが、タイで実際に行う対象に金型協会を選んだ関係で、取り上げる診断の種類は業界診断ということになった。診断士養成コースを修了した人の中からメンバーが選ばれた。私とK氏とはタイ人の診断班員と打ち合わせをして、3ヶ月ほどで報告書を仕上げるというスケジュールを立てた。もっとも、その3ヶ月で完成するという計画は実際には大幅に延びてしまったのだが。

言葉の壁に悪戦苦闘した

私もK氏もタイ語は全く分からない。タイ人の通訳を介しての話し合いだから、なかなか思ったようには意思疎通が出来なかった。計画の通りに進まなかった第一の理由だ。通訳は日本に留学した経験のある人が多かったので頭のいい人たちなのだが、それでも私たちが言ったことをどの程度正確にタイ語に直してくれているか不安があった。

通訳が居るとはいつても、一日いくらという契約で通訳を使うのだから、打ち合わせを行う以外の日には、ちょっとしたことをタイ人に連絡しようとしても通訳を使えない。下手な英語で冷や汗をかくということになった。ちなみに、タイの人たちは日本人に比べると大学卒というレベルでは英語の能力が高いように思う。授業を英語で行っているというミッション系の大学を卒業した人などは発音も本格的だ。

アンケート回収率の低さ

診断の対象である金型業界の方にも、診断を予定通りに進めにくくする原因があった。業界全体の状況を把握するためには企業アンケートが必要なのだが、アンケートの回収率が絶望的に低かったのだ。日本の中小企業と違ってタイ

ではアンケートに対する協力度が非常に低かった。後から考えると、設問をもっと簡単なものにしていればよかったとか、もっと初期の段階で電話依頼をやればよかったのにと、いろいろと反省すべき点はある。だが、診断機関の女子職員の努力によってなんとか集計に耐えるほどの回答を集めることが出来たのでほっとした。タイの女性は芯が強いというのが私の印象だ。

品質・納期などで感覚の違い

アンケートの集計がやっと出来たところで金型の企業と金型を使用している企業に訪問調査した。日本の町工場と同じ雰囲気工場もあった。CAD、CAMを立派に使いこなしている工場もあった。高い精度の製品を作ろうと努力している企業がある一方、そんな高品質を目指さなくても食ってはいける、と現状に満足している企業もあった。

日本の自動車メーカーはタイの生産拠点を拡大する方向にある。日本からやってきた金型工場にもおじゃました。納期や品質についての日本企業とタイ企業との感覚のズレが大きく、このズレをなくすことが日本企業とタイ企業の双方にとって大切なことだと痛感した。

集団診断ワークショップを行う

業界診断に参加した診断士には一応ノウハウが伝わったのだが、もっと多数の人に集団診断の進め方を学んでほしいと思い、ワークショップを開催することにした。金型業界診断の報告書を参考資料としてもらい、アンケート用紙の設計から始めて、診断の手順を追うかたちで実習してもらった。受講生が集まりやすいように夜間を使い8回かけておこなった。このワークショップのテキストはそのときにはコピーで配布したが、後で冊子にまとめてタイに寄贈した。

タイの診断士は優秀で熱心

前述のワークショップは夕方6時から3時間行ったのだが、昼間は仕事をして、ワークショップに参加するタイの人たちの熱心さには感心した。タイの社会は富裕層と庶民との差が大きいが、診断の勉強に参加する人たちはエリートである。英語を自由に使える人や、MBAの資格を持っている人も多い。企業診断を行って報告書をまとめ、それを企業に対してプレゼンテーション(報告会のことを彼らはこういう)するときには、必ずパワーポイントを使うのである。話し方もうまい。

ただ、私の率直な感想としては、表面上は非常に優秀だが内容的には深みが足りないのではないか、という面もあった。診断のツールをいろいろと使いこなすのはうまいが、経営改善のための具体策を打ち出すところではいまいちだった。

商業診断も芽吹きつつある

現在のところ診断士養成コースは製造業のものしかなく、商業の診断を行う能力は育っていない。しかし、去年は日本から派遣された商業診断専門家が中心となって、大型商業施設の診断や広域商業診断が行われた。タイの診断士がボランティア的に集まってそれらの診断に参加し、商業診断のノウハウを身につけつつある。タイの商業は屋台と大型店に二分されるような状況なので、日本の商業診断がそのままでは通用しない面もあるだろうが、今後の発展を見守りたい。

得難い体験一年間の海外生活

日本と全く違う気候、食べ物や果物、歴史との出会い、タイの人々との交流。すべてが私にとっては貴重な思い出だ。それらについても書きたかったのだが紙幅がない。最後にひとこと。日本の経済は勢いを失っているが、タイの経済には明るい未来がある。



▲ワット・チャーン・ロームの前の筆者

委員会だより

プロジェクト開発委員会

第4回ひょうご元気企業交流会

第4回ひょうご元気企業交流会を平成16年3月11日神戸市産業振興センターで開催した。

ひょうごオンリーワン総研グループ(HOO)が企画する元気企業交流会の基本テーマは、「顧客満足向上」である。第4回交流会は「顧客満足向上(CS)は従業員満足(ES)の向上から」をテーマに取上げた。

参加企業は製造業から医療・福祉などバラエティに富んだ企業21社の参加があった。

今回の交流会の特徴は、

- ① 元気企業の従業員満足事例からその取り組み方法を学ぶ。
- ② 事例及び簡易チェックリストを基に我が社の従業員満足度を点検し、ESプロジェクトを立案する。
- ③ ESプロジェクト立案づくりに、中小企業診断士が個別助言・支援を行う。

この3つの特徴を打出した元気企業交流会である。

プログラムは、「元気企業の従業員満足度アップ策とは? - 従業員満足度調査、満足度アップ策の取り組み



方法」について、大場一正氏(有)人財開発室 代表取締役)の基調講演をもとに、参加企業のバズ・セッションを行った。参加企業の業種が多様であるだけ取組みの現状や企業内での悩みもまちまちであったが、参加企業の反応は「いろいろな業種の企業のやり方や意見を聞くことができ大変参考になった」「企業内での意見の相違も、お客様の立場、お客様の満足という観点から考えることの重要性を知ることができた」「従業員が最も満足するのは仕事の満足感、達成した喜び」なんだということがよくわかった。などの感想があり好評であった。

ひょうご元気企業交流会は発足1周年記念大会に向けて新たな企画をしている。

プロジェクト開発委員会 平野征夫



チャレンジする中小企業 アシストする中小企業診断士



中小企業診断士はあなたのビジネスパートナーです。
業務改善から経営革新まで実務レベルでサポートします。



経営に関するご相談・ご依頼は、

(社)中小企業診断協会 兵庫県支部 事務局まで

電話(078)361-8034 / FAX(078)361-8722

E-mail info@shindan-hg.com

URL <http://www.shindan-hg.com>



委員会だより

会員研修委員会

会員研修委員会便り

皆さん今日は。

平成16年度も、会員研修委員会のメンバー一同は、皆様の貴重な情報源と、啓発の機会の提供のため、全力を尽くすことをお約束いたします。そのため「自主研究会」を始め別掲の各研究会のメニューを準備して、皆様のご参加をお待ち致しております。

中でもユニークな研究会は、「企業内診断士活性化研究会」で、その名の通り企業内診断士のためのもので、現在非会員も含めて21名の方々が参加されています。将来の独立開業に備え、又は企業内で診断士としての力量発揮のため、研鑽に励んで居られます。他の研究会もそれぞれのコンセプトに従い、テーマ・講師を厳選して開催されており、熱心に研究をつづけています。

しかしながら誠に残念なことは、最近どの研究会も、受講者数がやや減少する傾向にあることです。そのせいか「コンサル技法研究会」は、3月例会を最後に閉会となりました。また、「助言技法研究会」は6月の例会を以て発展的解散という形をとります。

このまま放置しておけば、寂しくなる一方で、勉強の機会も減ってしまいますので、委員会メンバー一同知恵を絞って、新たなコンセプト・テーマで新しい研究会を立ち上げたいと構想を練っているところです。当委員会に力を貸してやろうと思われる方が居られましたら、メンバーの誰かに声をかけて下さい。大歓迎致します。

会員研修委員会委員長 吉住 尚史

経営革新の事例募集!!

「第2回近畿ブロック経営革新事例発表会」を、平成16年9月3日(金)京都市で開催することになりました。昨年に引き続き近畿7支部(兵庫、福井、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山)が共同で開催します。兵庫県支部会員の皆さんが経営革新計画の策定に関わった事例を下記要領で募集します。経営革新計画の策定や実施に診断士が果たした役割・成果を広く内外に告知するのがネライです。多くの方のご応募を期待します。

兵庫県支部募集要領

1. 募集内容：経営革新事例で診断士が関わり成果があがった事例
2. 募集件数：10事例程度
3. 募集期間：募集締切 5月31日(月) 当日までに兵庫県支部に到着したもの
4. 支部選考：6月15日(火) 支部選考委員会で応募事例を選考します。
選考された 5事例 を近畿ブロック選考委員会に推薦します。
5. 応募様式：応募希望者は支部事務局までご連絡ください。応募用紙をお渡します。
(ホームページからダウンロード・・・メールで送る)
6. 各支部で選考された事例の中から4事例を選考し発表会で発表し表彰します。
発表会で本審査を行い優秀事例を診断協会本部50周年記念シンポジウムの発表事例として推薦します。
又、近畿ブロックの応募事例の中から10例程度を選び「事例集」として関係先に配布する予定です。



自主研究会抄録

12月度研究会

テーマ：特定調停法について

講師：橋本 真爾弁護士

日時：平成15年12月1日(月)18:00～20:00 場所：神戸市産業振興センター 902号室

平成15年12月1日の自主研究会は、「特定調停法について」のテーマで橋本真爾弁護士を講師に迎えて行われました。橋本先生は、自主研究会の古くからの特別会員で、研究会後の有志による懇親会にもほとんど出席頂いており、いつもご指導頂いております。

特定調停法は、今、新聞において第三セクター方式で運営されていた事業の再生手法として話題になっているものです。

企業および個人の破綻状況および過大債務処理手段について、平成14年司法年報を示して現状を説明されました。特に兵庫県での厳しさを指摘されて、これらの過大債務の処理手法として任意整理、民事再生法、会社更生法、破産法などとの関連と位置づけを細かく説明頂きました。

特定調停は民事調停の一類型で、支払い不能に陥るおそれがある債務者等の経済再生に資するため、対策の前倒しによる手続(特定調停)により、債務者が追っている金銭債務にかかる利害関係を調整することを目的としています。この手法の特徴は、破綻前の予防的手法であること、調整の当事者である債権者は必ずしも債権者全員に限られず一部の特定の債権者に限定して申し立てることが出来る、すなわち債権者会議を開くことなく極秘に解決することが可能となっていることにあります。

中小企業診断士として、中小企業の経営破綻を未然に防止する手法として、特定調停法を知ることが出来たことは大変意味あることでした。(文:白尾 嘉一)

1月度研究会

テーマ：「金融機関の中小企業格付け視点とは？」

講師：兵庫県支部会員 竹末 文昭

日時：平成16年1月13日(火)18:00～20:00 場所：神戸市産業振興センター 902号室

1.信用格付制度登場の背景

金融グローバル化の進展やデリバティブ商品等の金融技術革新により金融機関の抱えるリスクが急激に拡大・多様化し、金融機関自らが適切なリスク管理を行なう必要が出てきた。つまり、適切なリスク管理(リスク分散)を行ないながら、必要なリスクテイクを行なっていくことが金融機関の役割となってきたのである。

不良債権問題を克服し再生するため、金融機関には、適切なリスク管理態勢の確立、つまり貸出先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少ないし消失する「信用リスク」に対する適切な対応が必須となっている。

このような状況下、信用リスク管理態勢の整備、すなわち信用格付制度が登場することになったのである。

2.信用格付とは？

債務者(借出先)の信用リスクの程度に応じたランク付のことで、信用リスク管理のために、不可欠のものであるとともに、正確な償却・引当の基礎となるものである。

3.信用格付制度の目的

貸出審査の均一化・効率化のため。

信用リスクに応じた金利設定のため。

信用リスクに応じた信用供与のため。

ポートフォリオ管理のため。

4.格付アップ施策

定量要因の改善(有利子負債の圧縮、総資産圧縮等)

定性要因の改善(デットIRの観点)

(文:竹末 文昭)



自主研究会抄録

2月度研究会

テーマ：日本一のIT商工会議所をめざす

講師：大阪府豊中商工会議所 理事兼事務局長 小早川謙一
 日時：平成16年2月2日(月) 場所：神戸市産業振興センター 902号室

中小企業診断士にとって商工会議所や商工会とは、金融・税務・労働保険など政府や地方公共団体の施策を中心に地元中小企業を支援し、地域の活性化を図る団体であることは周知の事実である。しかし、昨今の合併やリストラにより、会議所や商工会も従来の補助金や会員からの会費に依存するのではなく、新たな収益事業を検討していかなければならない時期にきている。かかる状況の中、豊中商工会議所は「日本一のIT商工会議所」をめざして、1999年からインターネットプロバイダー事業からSEO、最近ではeラーニング等の多数(現在14)の支援メニューを用意し、会員へのサービス充実を図っている先駆的な会議所である。その証として、2002年には公的団体では始めて「関西IT活用企業百撰」に選ばれ表彰された。同氏は会議所の実務的な先駆者としてのリーダー役を担っており、講演の最後に話された同所職員への3つの「アテにはしていけない」は非常に印象的であった。①俺は引くのでアテにするな ②役員をアテにするな ③行政をアテにするな。我々中小企業診断士も行政の支援施策だけを見ないで、常に現場を見る意識を忘れないようにしなければならないと自戒をさせられた有意義な講演であった。

豊中商工会議所 URL:<http://www.oaana.or.jp>

(文:大森 啓司)

3月度研究会

テーマ：京都市内視察と京都支部会員との交流会

日時：平成16年3月6日(土)

3月例会は京都へ出向いた(11月に京都支部の方々が神戸に来られ、そのお返し?)。18名の参加を得、貸し切りバスで神戸を8時半に発った。

まずは京都支部の事務所にて、京都支部常任理事山脇康彦氏の講演を聞いた。同氏は、JICAからの派遣で2000年4～6月、ウズベキスタンにて一人でマーケティング調査を行い、テレビ出演もされた。2002年1～8月には、キリギスタンにてバーコード導入・国コード取得支援をされた。現地の写真を映しながらのお話のため、中央アジア各国の雰囲気がよく伝わってきた。なお、京都支部の事務所は20人程度でも十分入れる広さで、兵庫県支部としてはうらやましい限りである。

昼食は、町屋を改装した「串くら」という店で京都支部の皆さんと共にとった。値段は1500円だが、3000円程度に感じる豪華さであった。

昼食後は専ら「新選組史跡めぐりの旅」である。雪が舞う中、「現地ガイド」の山脇常任理事の案内で、幕府公許の遊里で現存する唯一の揚屋建築の「島原・角屋」(芹沢鴨はここで宴会をした夜、八木邸で近藤勇らに暗殺された。柱に「新選組の刀痕」が今も残る)壬生屯所跡の「八木家」(近藤勇らの芹沢鴨暗殺の場となった)西陣織成館などを見学した。「八木家」の案内ガイドは、「講師、あたかも見たように物を言い」のとおり、ビデオ録画していたのでは?と思うぐらいの詳しさであった。

夕食は京都支部の皆さんとの交流会。元関取の若獅子関が指南役の「門」で、ミニちゃんこ料理と名酒「越之寒梅」に舌鼓しながらの一時を過ごし、帰路に着いた。

今回の視察は、海外ビジネスの講演、京都の伝統建築、特別公開の新選組縁の史跡など、海外と古の都とを結ぶ“時空間”の旅であった。11月の若狭視察に続き、今回も参加しなかった会員さん、本当に残念でした!

(文:大場 一正)



支部だより

新年度に入り、我が総務委員会では、前年度決算や新年度予算案の策定、各委員会の前年度実施事業の実績や新年度事業計画の取りまとめ等、支部総会に向けての準備作業が進行中です。その支部総会での特筆事項としては、今年は2年に1回の役員改選年にあたる事が挙げられます。そこで今回は、役員改選の概要や作業の進行状況について簡潔にご報告申し上げます。

支部規約では、役員である理事及び監事は総会において選任するということや、支部長・副支部長及び常任理事は理事の互選により定めるとなっています。さらに支部理事会規定では、役員候補者の選任を総会に先立つ理事会で行うこととなっています。その役員候補者は、常任理事会が会員暦1年以上の会員の中から推薦し、理事会の承認を得て選任します。また、3役である支部長、副支部長及び常任理事の各候補者は、今回より設けられた委員3名からなる「役員候補者選任委員会」管理の下、予め定められた期間内(今回は4月1日～5日)に届出のあった自薦、他薦による立候補者の中から、4月の理事会における選挙または信任投票にて選任されることとなっています。4月9日に公開された届出の状況は、支部長候補1名、副支部長候補4名、常任理事候補7名となっています。

なお、今回の役員改選を機会に、よりオープンな兵庫県支部にしていきたいと思います。そのためにも、より多くの会員の皆様の支部行事や各種研究会・研修会、委員会活動等へのご参加をお願いいたします。 総務委員会 平井 清美

各研究会スケジュール

自主研究会

問合せ先:兵庫県支部 078(361)8034

日時	場所	テーマ	講師
5月10日(月) 18:00～20:00	神戸市産業振興センター 902号室	優秀な人材を確保する方法	兵庫県支部会員 中井 嘉樹氏
6月7日(月) 18:00～20:00	神戸市産業振興センター 902号室	高専生が期待する創業のこれから	神戸市立高専生 縄舟 優一氏
7月5日(月) 18:00～20:00	神戸市産業振興センター	地場産業の動向「ケミカルシューズ」	組合事務局長 梅垣 昭氏
9月6日(月) 18:00～20:00	神戸市産業振興センター	研究開発型企業の開発方針	関西化学機械(株) 社長 野田 秀夫氏

助言技法研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月14日(月) 19:00～20:30	神戸市産業振興センター 804号室	士業のためのコーチング	兵庫県支部会員 畑 薫氏

経営法務研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月15日(火) 19:00～20:30	神戸市産業振興センター 804号室	個人情報保護法	兵庫県支部会員 大森 啓司氏
7月20日(火) 19:00～20:30	未定	未定	兵庫県支部会員 投石 満雄氏
9月 日() 19:00～20:30	未定	労働者派遣法の改正内容	兵庫県支部会員 畑 薫氏

企業内診断士活性化研究会

日時	場所	テーマ	講師
5月19日(水) 19:00～21:00	生活創造センター クリスタルビル4階B	業界研究(流通業)	コープこうべ 丹後 和也氏
6月20日(日) 14:00～17:00	生活創造センター クリスタルビル5階B	コンサルのNPO法人活動例	NPO法人チャレンジ企業支援隊 理事長 成田 欽史郎氏
7月21日(水) 19:00～21:00	生活創造センター クリスタルビル	未定	

編集後記

アフガニスタン、イラク、イスラエル/パレスチナ等クリティカルな政情を伝えるニュースが続いており、こうした政治問題は経済問題と切り離せない動きとなっています。診断士も日本の中小企業に焦点をあてるのみならず、広く世界に目を向ける必要性が益々高まってきております。そうした中で広報委員を務められた富永会員がタイの中小企業診断士養成事業のためタイへ赴任され一年の任務を終え無事帰国されましたので、「日本の診断士の国際支援」というテーマで記事を書いていただきました。今後とも内外に目を向けた記事を発信してゆきたいと思います。

(田淵)